

平成 29 年度第 1 回笛吹市御坂町地域審議会会議録

開催日時

平成 29 年 5 月 23 日（火）午後 7 時 30 分～

開催場所

学びの杜みさか講座教室 1・2

出席者

・地域審議委員

古屋(洋)委員、長沼委員、早川委員、水上委員、河野委員、上野(正)委員、
古屋(泰)委員、久保田委員、天野委員、堀内委員、弦間委員、上野(美)委員

計 12 名

・山下市長、小澤総務部長、深澤経営政策部長、須田総務課長、小宮山経営企画課長、
小澤経営企画課政策推進担当 L

・事務局 青山支所長、菊島地域住民課担当 L

欠席者 小澤委員

傍聴人 なし

次第（進行：支所長）

1. 開会（支所長）

・互礼により開会

2. 委嘱状交付

・市長より委嘱状を交付（12 名）

3. 役員選出（選任前に委員、職員自己紹介）

・事務局案として、会長に古屋委員（区長会長）、副会長には弦間委員を提案。

・全委員より承認を得る。

4. 会長あいさつ

笛吹市発展のため尽力していきたいと思うので協力願う。

5. 市長あいさつ

2 年間という期間だが、様々な意見をいただくとともに、地域の声を吸い上げていただき、色々な形で提案をいただきたい。

今日は、市が抱える様々な課題やハートフルタウンについて話しながら、意見を拝聴したいと考えている。

まず、NTT 用地の購入について議会で承認を得、活用策について 1 年から 2 年、しっかりと議論をして、皆さんの意見を聞いてから、最終的にどういう形で使っていくか結論を出したいと思っている。あの土地は荒れており、今すぐにはとても使えるような状態ではないので、6 月議会に予算を計上し、少し整地して秋にはワイン祭りを

行ないたい。勝沼町のぶどう祭りはたいへん好評、本市にも12社ワイン会社があるので、皆さん方に協力いただき、進めていきたい。この用地を多くの方に使ってもらい、色々なイメージを掴んで、提案をいただきながら、最終的に結論を出したいと思う。そんな整備を進め、NTT 用地取得をひとつの起爆剤にできないかと考えている。石和だけのものではなく、とにかく全市の皆さんに大いに使っていただき、良いものを作り上げていきたいと考えている。

次に都市計画税について、色々な議論をされていることは十分承知している。本来なら今年の4月から賦課する計画だったが、私が市長に就任して一呼吸置くことにした。この新税が本当に皆さんに理解いただけるのか、今日もこの場で意見をいただき、1年間しっかり議論し最終的な結論を見出していきたいと考えている。

次に支所について、本来であれば4月1日から、全ての支所で職員を1名減員する計画だったが、1年間据え置いた。私が市長に就任以来、各方面から支所のあり方について色々な提案や、不満の声も耳に入ってきた。とにかく、支所は何をしなければいけないのか、そして皆さんが何を希望しているのか、もう一度きちんと洗い直したうえで、必要な職員数、適正な職員数を導き出していきたいと考えている。1年間議論する時間を得たので、今、色々な形で各方面の意見を伺いながら、執行部サイドで進めている。来年から一宮町と八代町に地域包括支援センターを開設する予定。こういった施設を支所と組み合わせながら、相談業務的な部分における支所の役割、体制作りというものをこれから計画していく。

この三つの課題は、私が市長に就任して少し時間をいただき、研究の最中なので、本日もまた色々な意見をいただければ有難い。

続いてハートフルタウン笛吹について、これは単純に「やさしさあふれるまちづくりをしたい」ということ。誰もが平安に毎日を過ごせれば良いが、当然、全ての方に満足いただくのは難しいので、こういうものをひとつの柱にして、地域の皆さんが活躍できる場を提供していきたいと考えている。

その中で、まず「幸せ実感」について。非常に災害が多く、今何が起こるかかわからないそんな時代。その備えをするため備蓄用品の整備をもう少しきめ細かな形でしていこうということ。防犯灯の設置については、今各区でLEDへの変更に取り組んでいるが、好評な事業でもあるので、昨年度より多く予算化しLED化を促進していく。有料ごみ袋については、この4月から実施し、皆さんの努力でごみの量が2割ほど減っている。出来過ぎかと思えるぐらい順調に来ているが、ごみ袋の販売金額については皆さんから指摘がある。笛吹市は30円で、他市が15円、何で倍もするのかという話を聞く。笛吹市では、可燃ごみ袋を30円取るが、他の不燃・粗大ごみに関しては無料。他市は全て有料。よって、決して笛吹市が高いということではない。他にもピンク色の袋は良いが、透明度がありすぎ、中味が見えてしまうので、もう少し色を濃くして欲しいといった意見も聞くが、中身が少し見えないと、皆さんの意識も低くなり、何を入れても分からないだろうということもある。ここが半透明の難しいところ。また意見をいただけたらと思っている。次に子育て、若者の仕事づくりが、これからの大きなテーマ。子育て支援を色々な形で進めていく。

次に新たな農業について、今年、世界農業遺産登録に向け峡東3市で努力してきた

が、残念ながら選ばれなかった。農業遺産に登録されると開発も何もできない、木1本切れなくなると思われているが、そんなことはない。景観というのは確かにひとつの選考ポイントだが、峡東地域の栽培方法や昔ながらのシステムが非常に評価を得ていたにもかかわらず、今回は登録されなかった。その代わりに、日本農業遺産の称号を得たので、これから3市が協力しながら、うまく使っていきたいと考えている。農業用の機械リース事業など、需要の高い事業は予算を多く確保し、継続して進める。笛吹市の農業予算というのは、13億円。他市に比べ比率的には多い。

次に観光再生について、河口湖の観光が外国人観光客により今絶好調。旅行の形態も団体旅行から個人旅行に変わっている。携帯電話を頼りに個人で旅行するFIT (Foreign Independent Tour) の時代。河口湖では、富士山だけではなく次の手として、果物・ワインを狙っている。結局、無いものが欲しいということで、河口湖では笛吹のフルーツ・ワインを、こちらは河口湖の客を何とかこっちに引っぱれないだろうかと考え、甲府市、山梨市、甲州市も交えて4市1町で広域連携していく。また、DMOについても民間レベルの観光協会が連携し、笛吹と富士河口湖で柱になって、広めていこうという取り組みをし、海外のインバウンドも含め、なんとか多くの客が来るよう考えている。石和の観光は、イメージとして客にお酒飲ませて、宴会をして帰す。これが観光だという思いがあったのかもしれないが、もうそんな時代は終わった。これだけの果物があるというのは、我々が思っている以上に他の地域では非常に尊い財産だと思われている。また、観光のひとつのキーワードとして「笛吹物語」を進めている。要は今笛吹市にはこんなに魅力がある。フルーツも、ワインも、各地に色々なところがある。新道峠からの富士山は、まるで笛吹市のものだと思うような気持ちになるくらい、素晴らし景色。今まである程度整備をしてきたが、まだ足りない部分もあるので、少しそこを整備していきたい。そういった笛吹市にある資源を少し磨きあげ、そして目的地になる、今の旅行は自身であそこのあれを食べてみたい、あれを見てみたい、こういう時期にはあれが最高だからそれを見に行きたい、そういった絞った旅行をしているので、その選択肢に笛吹市が選ばれ、笛吹の桃を食べてみたい、笛吹のワインを飲んでみたい、新道峠から富士山を見てみたい、そういうものを作っていないと、なかなか観光としてひとつの大きな流れというのは作れないのではないかと考えている。こんなことを笛吹物語で、春・夏・秋・冬、四季折々に提供できるようにものを作っていきたいというのが私の考え。

最後に、合併特例債を使って先行投資したので借金もある。それを少しずつ減らしていかなければならないし、当然、市民の市役所に対する考え方というものも変わってきたので、我々自身も本当に市民の皆さんに愛されるような市役所になるために、できるだけ無駄をなくし、職員ひとりひとりが高い志を持ち、地域を良くする、そういった市役所にするために色々これから取り組むので、行財政改革に徹底的に取り組むということも今回の大きな目玉。

そういったことを進めながら、なんとか素晴らしいものにしたいと考えている。こういう機会に地域審議会の皆さんから色々な意見を聞きながら、是非とも市政に反映していきたいと考えているので、今日は色々な話を聞かせていただきたい。

6. 議事(進行：会長)

(支所長： 地域審議会条例第7条の4により会議の議長は会長が行うことを説明。)

(1) 市長との意見交換

(会長)

それでは市長との意見交換を始める。

(委員)

介護保険の給付金が最近値上がりになってきている、28年度55億、29年度59億といった状態。市では30年度を目処に介護保険料の改定を予定しているということ。この介護保険は、特別会計なので直接的には影響無いが、オーバーすれば、必ず一般会計から補填すると思う。そこを踏まえ、保険料の適正な保険料率と、今後の介護給付が停滞しないようにお願いしたい。これに関連し、市税の全体が収入減になっている。数字的に確認できていないが、滞納額がだいぶあると聞いている。市としても、努力していると思うが、なかなか進まない気がする。納税者に対して公正、公平ということから、是非滞納額の減少に努めていただきたい。

それからもう1点。地域包括支援センターが30年度に石和ほか一宮と八代に置かれるという話だが、その後、御坂町、春日居町にも支援センターとまではいかなくても相談窓口を設置する構想はあるのか。できれば置いていただきたい。

(市長)

介護保険料は、きっちりやる必要があると思っている。当然、料金を上げていかなければ成り立たない。逆に言えば笛吹市は社協を含め、非常に手厚い形でサービスを提供しているので、他市に比べ介護保険の利用率が高い。

滞納額については、市役所の職員はがんばっている。年々本当に減っている。最初の頃はびっくりするぐらいの額だったが、まだ当然ある。あまり言いたくはないが、石和が多い。税の公平性で払っていただくのが当たり前。一生懸命取り組む。

(経営企画課長)

介護保険計画の中で、平成30年までに地域包括支援センターをできるだけ市民の近いところへ置くということで、現在は一箇所基幹で集中的にやっているが、それをあと2箇所一宮と八代へ増やし、石和と合わせ3箇所になる。そのほかの相談窓口として、社協に地域事務所がある。地域事務所と連携をとりながら、それぞれの地域包括支援センターをやっていくことになる。例えば、下成田ならば一宮へ行かなくても石和へ行けば情報も連動しているので、その形で進めていく。

(委員)

私の子供が塩山に嫁いだ。塩山の子育てはたいへんきめ細かい。笛吹市より規模が小さい市ということもあるが、医療的な問題、子供の育て方などを相談できる施設が数多くあり、気軽に行けるようになっている。娘は塩山に嫁に行ってよかったと喜んでいる。御坂には、子供を支援する場所が無い。どうしても石和や甲府へ行くことになる。できればもう少しきめ細かに子供たちの育成、学校へ行く前の子供たちの教育するための施設がほしいような気がする。塩山はそのへん大変レベルが高い。市の人口が減らないためには、これは今の子供から育てなければならない。その子供たちに魅力があって、この地域に生まれて良かった、この地域の学校にあって良かったと誇

りを持てるような環境にして欲しい。

(市長)

本市も決して負けていないくらいは頑張っているが、細かい部分に目がいていないのかもしれない。甲州市がどんなことをやっているのか、研究する。

(委員)

私は子育てに関しては、笛吹も負けていないと思う。御坂にはキッズみさかがあり、これは月曜日から金曜日まで、一日窓口を開けており、4人の方が、常時対応してくれる。同じように一宮、石和、八代、境川にもあり、市内どこでも自分で選んで行くことができる。いろんなカリキュラムがある。また、そこには待機児童の子達が放課後來ますし、施設もリニューアルし良くなっている。石和にも赤ちゃんを産んだばかりの産前産後ケアセンターという県内でも誇れるような県の施設があり、決して塩山に負けてないと思っている。広報で毎月すごい内容で色々なメニューが入っていて、ママたちはそれを見ながら必要なものはかなり使っている。

(委員)

道路整備について、提案したい。国道、県道、市道があるが、自分で車を運転して移動することを考えると、ひとつの道路をとっても、少し整備が遅れていると思う。例えば137号線は歩道が狭い、歩道が有ったり無かったり、なんか田舎を走っているような感じで、笛吹市へ来たんだという華がないような気がする。137号線の東西の道、それを取り巻く南北の道などは、歩道をつけるなどもう少し整備をすれば、車を走らせていても、歩いていてもなんか気持ちがいいなという気がする。特に八千歳の信号からバイパスに行く道には歩道が無い、一部に歩道があるけれども狭い、御坂西小学校からバイパスに向かう道を、子供たちが通学路に使っているが、歩道が無く事故が起きる可能性が十分考えられる。ということもあるので、道路整備をもう少し進めていって欲しい。また、木を植えて何とか道路と命名する、あるいは街灯をつけて明るくする、そういった、幹線道路あるいは色々な道路に明るさをもたらした方がいい気がする。石和のNTT用地の周辺で、道路整備をして橋の架け替えをしているが、石和郵便局の前の道は、せめて観光バスが入れるような広さがほしい気がする。そういった石和の町の、観光の活性化も考えながら、道路整備を計画的に進めていってほしい。

(委員)

栗合からインターへ抜ける直進道に花桃が植えてあり綺麗だった。これは当初、観光資源ですばらしいと言っていたが、実はあの地域から、葉もぐり蛾が発生し困るとい苦情があり、この地域審議会で決断して伐採し、そのままになっている。花を皆で植えて綺麗にすれば良いと言ってもなかなか難しいので、花桃跡地は全部撤去し、車椅子、ジョギング、散歩、ウォーキングなどの人たちが、すり合いができるような道路施設にすれば良いと思う。幅が3mあるので仮に全部歩道にし、途中にトイレ、休憩所を作る、あるいは点々と防犯灯を付けるなど、一度に全ては難しいと思うので、計画を立てて実施するなどしないと、今のままではどうかと思う。

(委員)

御坂町時代、現物支給という仕組みがあった。多少痛んだ3m幅の道路があった場

合、予算の関係で町では修繕出来ないの、生コンが支給され、受益者が舗装を自分で行なった。あれは地域の和になるし、地域の活性化にもなり、回りに花も植えているので、地域のためになっていた。市で対応できない事案は、地域でやったら良いと思う。うちの畑に水路がなくて、すごい雨が降ったときに流れてしまうので、水路を造ってもらえないかと要望したが断られた。そのかわりU字溝が支給され、自分で畑にU字溝を敷設した。そういう、地域で欲しいが現実にできないもの沢山ある。地域に任せてしまい、現物を支給して後は自分たちでやったらどうかということも、もう少し間口を広げて対応してもらえれば相当よくなると思う。

(市長)

そういうことも考えられるので、対応についてはよく調べる。

道づくりの話はかなり大きな話。県道にしても市道にしても地権者の協力も必要となり、予算も膨大にもなる。子供の通学路の部分や荒屋から日川高校まで、創価学会の前の所が途切れていた。そういった整備が遅れている部分で目に付くところがあるので、大いに研究する。やってみたいと思うので、よろしく願う。

(委員)

震災の勉強会が、塩山、山梨市、笛吹で11~12月にかけて開催され、全て出席した。災害で最も大切なのは隣り近所ということだった。市や御坂支所などは、大きく動かすところなので、水が足りない、オムツが足りないという話を、大きい災害では、すぐに対応は出来ない。個人情報の問題があるが、隣り近所、せめて自分の隣の家の、寝たきりの老人や、赤ちゃんを持っているママがいるという情報を、把握をして、ここだけは声を掛けられて、お互いにそれをしていくと組の生存や色々なことがいち早く組単位だったらできる。組単位でできたものを、各区長にあげていく。区長にあがったものが支所に行く。支所にあがったものが本部に行くということで、細やかでスピーディな対応ができる。市長は本部長なので、大きい動きをしてもらう。本部の人たちが細々したことをしていたのでは、その1週間の間にできることが限られてしまう。大きいところは全部任せて私たちに隣近所は任せてくださいという、市民のそれが大切だということ、やっぱりどの会場でも一番あったことで、確かにそうだと思う。

震災というとサイレンが鳴ってみんな各公民館に集まるが、実は公民館に集まることは戦争当事に点呼を取るのにやりやすいということで、第2次世界大戦のその時から始まった恒例行事とのこと。それが今連綿と受け継がれているが、実際に被災した時にはあんなことは有り得ないと大方の人が話していた。私もやってみて、行く途中にはブロック塀があったり、危ないところがある中で、小さい子を連れだしたり年寄りを連れてみんながぞろぞろ行くわけだが、これは実際に起きたときにはまず殆んど機能しない。やはり本当に何か起きたときに動けるのは隣り近所、組がひとつになって組長と共にまず組の把握がいちばん大切で、このところをきちんとまず機能させることが必要だと思う。女性が集まる場所でそういう話をしているが、小さいことだがこの積み重ねが笛吹全体の安全ということに繋がっていく。有事の際に必要な3日分の水は必ず自分のうちで蓄えておくなど必要最小限の備えなど、この講習会で学んだことを伝えていかなければと思っている。本当に体制も大事だが、末端のところ

の意識が本当に最終的には大切だと思うのでお伝えしたい。

(市長)

その意識の高揚というか高まりをこういう機会に肝に銘じたいと思う。

(委員)

防災訓練を夜行なうのは、大変なことも多々あると思うが、震災はいつ起こるかわからないので、夜、震災が来たら、ライトも何も無い所に急に非難しろといっても、それはたいへんだと思う。冬の雨や雪が降っているときに、広場に集まれば凍え死んでしまうという話もある。毎年毎年同じような訓練をやるのも仕方が無いが、地区の消防団にも言ったことがある。「災害は何時起こるかわからないので、詰め所で待機してから集合場所へ出向くなんて有り得ない。訓練なので詰め所で待機していても良いが、一時避難場所へ出向く際には、消防団員が『避難してください。』と声を掛けながら行け。」と。しかし、なかなか一般の市民が言っても響かない。年寄りの家に必ず声を掛けて行くとか、消防団員が避難場所へ向かう最中には、避難してくださいと言いつつ声を掛けながら、誘導する訓練を行なわなければ、実際災害が起きたときに何の役もしない。一気に色々な事を全部やるのは大変なので、毎年毎年やっていただいた方がよいことは小さいところから出来たらやってもれればありがたい。また、今、火事が起きても出火報が出ない。団員にはメールで来るようだが、自主消防にはメールは来ない。だから火事が起きても気付かない。団員がメールに気付かなかったらアウトだし、自主防にはそれは入ってこないから、そのへんをもう少し考えてもらいたい。対応した帰りには今どこで火災があって鎮火しました、地域の方もお気をつけくださいということを放送しながら消防車が帰ってくることがあるが、そういうことも啓蒙になるので、そういった細やかな対応をしてもらえればありがたい。消防団も大変とは思いますが、もう少し考えて行動してもらえればありがたいと思う。

(委員)

昨日防災訓練の説明会があった。その中で、組、隣り近所声掛けをして、安否を確認する中で、徐々に非難場所に避難してください。そういう話が昨日各地域に説明があったので、多分今年も各地域でそんな形で防災訓練が行なわれると思う。

(委員)

私は老人クラブだが、介護が必要な老人たちがどうやって災害から逃れるか、あそこに逃げれば3日か4日は衣食住をみてもらえる、そういうことが分かっていると本能的にそこに逃げていく。人に言われなくても、例えばここに逃げれば3日4日は飯を食えると。大野寺は逃げるところが無いが、ある程度大きな建物、例えば会社の施設などがあれば、老人が安心して指示がなくてもそこへ逃げられる。だけどそれが分からないので右往左往してしまう。できればそういったこともマップのなかに載せて、この施設は大丈夫、いつでも歓迎、備蓄はある、など老人たちに分かりやすくしてもらえればたいへん助かるという意見もあったので、よろしく願う。

(委員)

関連で、今の話の中で介護が必要、避難するときに誰は誰をみるという一覧表が、区長会と民生委員で作っている。私が役員するときそれを最初に作り始めたが、知っているのは区長と民生委員、消防。でも実際それを使っていくのは地域の組なので、誰

が誰をみるということを知っていないと意味がないと思う。区長と民生委員の2人か3人で全てはとても把握できないので、個人情報云々あるとは思いますが、その組の方に誰々は誰がみる、声掛けをする、頼んでいるということが分かるほうが私はいっている。きっと国からの指導でこういう形になっていると思うが、何かの折にそういう話を出して改善していただきたい。

また、新道峠の尾根伝いに大石峠や黒岳の方へ行く道路ができると良いと思う。一般の方もハイキング程度に行ける、車を置くところをもう少し広くして、道路ももう少しあればいいと思う。その繋がりですり下りてひと汗拭う、石和のホテルでなくてもいいが、そういうコース、それから一宮の釈迦堂遺跡から上の方に尾根伝いにハイキングする、ただ車で行くだけじゃなくてハイキングして下りてきて、どういう方法で石和に行くかは別として、その間に果物が買えて、ワインも飲めて、という全体のコースを作るような構想があるといいと思う。市長は若いので、ひとつだけでなく全体のそういうのも是非考えていただきたい。

(委員)

市長が他県なり海外、香港とかセールスに行くときの、笛吹市の売りは何ですか。桃やぶどうの売りって何ですか。セールスポイントは量がたくさんあるということしかない。

(市長)

それは、質も全然違う。

(委員)

東京のバイヤーと話しをすると、「今の農協のレベルなら日本全国どこにでもある。」「韓国では山梨よりも桃では量もたいへんだしすばらしい。」「今、中国へ日本人が1日5万円でシャインマスカットの指導に行っているので、あと3年も経てば日本のシャインマスカットなんてレベルじゃない、量もすごいし。」とのこと。その中で何をセールスポイントでやっていくといたら、安全・安心しかない。だから笛吹市も量がたいへんあればいいのではなく、美味い不味いは当たり前で、安全・安心というのを突き詰めていかないと、相手にされなくなる。笛吹市はEM菌という微生物を無料で市民に配っている。それを使えば農薬も減らせるし、いろいろメリットもある。耕作放棄地が御坂にも増えて、なかなか解消ができない。新規で入ってくる人たちも、どうやったら無農薬で農業、野菜や果物ができるかと聞いてくる。だいたい来る人たちは農薬とかあまり使いたくない人が多い。私どもが最初にこういうようなことをやっていたら、農薬も減らせるよとか、こういうやりかたで野菜とかこの地域でこういうものが作れるよっていうことを新たに提案できるのではと思う。今、御坂でもオリーブやマンゴーを作る人がいる。今後、ブドウではなくも、そういう特産物やいろいろなやりかたがあるが、もう少し質を高めるにはどうしたらいいか、その時は市で少しバックアップをしないと最初に回りだすまでは大変だと思う。最初に回りつくまでは何とか市でも応援してほしい。この前テレビを見ていたら岡山の山の中でアワビを作っていた。海と関係ないところでアワビを作って特産にしようという試み。御坂で言えば戸倉、芦川みたいな所でアワビを作っている。水さえ良ければ海水なんかいらぬ。そういうことがあるので、もう少し門戸を広げてもらい、自信持ってアピール

できる農産物を我々も作っていきたいし、その中には市でも少しバックアップをしてもらわなければならないこともあるので、よろしく願う。

(委員)

同級生で、ほかの仕事をしていて途中から家業の農業を継ぐ人がいるが、その際の農業への参入し易さというか、ハードルが高いと思う。

(市長)

技術的な指導者がいないとか。

(委員)

そういうことよりも、もっと経済的なこと。

(市長)

サラリーマンで月給 30 万もらっていたとして、農業ではなかなかすぐに収入があがらず、非常に経済的に厳しくなってしまうので、農業を継ぐというのはなかなか厳しいという感じ。若い人が農業になかなか従事できないということか。

(委員)

私は家業を継いだので入りやすかったが、家業が農家でない方は大変だと思う。

(委員)

知り合いのサラリーマンで農業をしたいという人がいるが、「土地が確保できない。」と言っていた。それから農機具も。実際 5 年くらいしないと本収入にならないので、その間どうする、家族の生活費はどうする、ということがある。具体的に「こういう方式の支援があるので、安心して農業してください。」というバックアップがあれば彼らは喜んでやる。しかし、「これからあと 5 年たったらどうなる。困った。」ととても不安に思っている。そして結婚したばかりで奥さんがいて養わないとならない。それは今市長が言ったような不安を持っているので、それをもっと具体的に強烈にバックアップすればもっと農家のやり手はあると思う。

(委員)

北杜市の事例が新聞に出ていた。支援を 3 年間して、その後も指導して適性を見極めてから移住をするという、簡単に言えばそういう内容だったような気がする。やっぱり地形と気候が違うから一概に何とも言えないが。

(会長)

経営のノウハウの確固たる指導者がいない。農協にも、何反あってどのくらいの成園を持っていればペイラインまで追いつくかっていうことをはっきり言える指導者が少ない。そういう部分は私たちも感じている。

(委員)

そうなると新聞に出ていたそれは参考になる。指導者がいて最後までそれを見て、指導して、この人なら最初にある程度育てる前に見極めてから指導するという。

(会長)

結局自分で販売すれば、ある程度自分の生活を維持できるというペイラインまで持っていく。どう持っていくかということは、後は自分の努力しかないと思って。最終的には補助金、補助金といっても、農業は自分の努力でやっていかないとちょっと厳しい。そういう指導をする人が農業委員会の委員でいる。

(市長)

システム作りをこれからしていかないといけない。ポイントポイントでは笛吹市もやっている。ただそれがひとつの円に繋がっていかない。農業法人で、ほぼ商社のように大きく経営しているところは、社員を自分のところで雇って、とにかく教えてやるからうちで働けど、3年ぐらいで一人前になったら、土地を借りてやるからそこでやれと、耕作放棄地だったらちょっと時間が掛かるかもしれないが、それをやらせる。その品物を今度は自分のところで買う。そういうやり方の所もある。多分こういうやり方で北杜市では非常に耕作地がフラットで一面にあるので、そういったことから、教えてやって、ちょっと努力すればそれらしくなると、こういう話。笛吹市でももう少し、雇って教えて土地、住居も提供して、ある程度1年以内ぐらいまで世話ができる、そういうシステムを作らなければいけない。今言うように、見極めが大切。せっかく3年仕込んでも、嫌だと言って出て行ってしまわれたら、それまでの支援が無駄になるので、こういうところを少しこれから研究する。

(会長)

時間が過ぎたので、市長より最後にまとめを願う。

(市長)

とにかく色々意見があれば、言っていたきたい。皆さんの声が一番の我々の市役所の肥やしなので、入口は閉めず間口を広く、出口のところは少々狭くなるかもしれないが、それを計画的にひとつひとつ進めたいと思うので、また色々指導願いたい。

～ 市長退席 ～

(2) その他

(委員)

都市計画税の話がさっき市長から出たが、都市計画というのは、笛吹市でこういう都市計画をしていくという、そういった青写真があるのか。

(総務部長)

基本的に都市計画とは、街並みを整備したり、下水道を整備したり、道路やごみ処理施設も整備できる。ただ、何でもいいというものではなく、都市計画の計画を立てて、その計画に基づいて都市計画法の決定を受けたものを作るというのが基本的な考え方。例えば石和の市部通り。昔は狭かったが広がった。あれを都市計画道路といって、道路の計画を都市計画でやっている。御坂も下水道をたくさん引いたが、それも下水道のエリアを設定して、そこへ下水道を計画的に引くということを都市計画の事業として認定すれば、都市計画事業として実施でき、都市計画税を充当することができる。普通の所得税や町県民税、市県民税は、学校教育、子育て、福祉などオールマイティに市として自由に使えるお金だが、都市計画税は目的税なので、都市計画の認定を受けたごく僅かなものにしか投入出来ない。都市計画事業として認定を受けた施設や道路、これまで整備してきた下水道整備の借金の返済にも充当できる。今、市でどうして下水道イコール都市計画税といった話が蔓延しているかというと、

都市計画税を課税するとして、何に充当できるかといったときに、これまで整備してきた下水道の償還金があげられる。勘違いされているのは、都市計画税は石和の一部のところを使うと思っている人が多いが、そうではなく御坂もそうだが、これまで市内の色々なところに整備した下水道の償還金に充てる予定。また、ごみ処理場を整備したが、一度に全て払えないので借金をしている。その起債を返していくために都市計画税を充当する。ただ、一番ボリュームの多いものは下水道なので、そうすると今度は逆に、下水道が来ない都市計画内のエリアの方からすれば、都市計画税は関係ないという考え方もでてくる。そこが一番皆さんの議論の多いところ。これから課税する都市計画税の充当先が下水道の償還金にしかないのであれば、都市計画エリアに課税ではなく、下水道のエリアに課税すれば良いのではという意見もあるが、ただ、この都市計画税というのは、住んでいる人たちが文化的な生活をするために必要なお金というのが基本的な考え方なので、今後、御坂のどこかにすばらしい公園を造ったり、何か施設を建てたり、道路を開けたりというのも都市計画認定をすればそれに充てることできる。では何か計画があるのかと聞かれたときに、今はそういった計画がないので、今までの下水道などの借金を都市計画税で返しますという説明になってしまう。具体的にインターの周辺にこんな施設を、こんな都市計画の何を造るといった明日に向かったことが言えないので、今は使うものがごみ処理場や下水道の償還に充てるという説明をさせてもらっている。しかし、下水道は借金をしているので、返していかなければならない。年間、都市計画税を取るとすると5億円になり、下水道の借金返済に充てられる。仮にそれがないとすると、市税の中の5億円をどうしても償還に充てなければならぬので、自由に使えるお金が5億円少なくなるという事実がある。そうするとそれが回りまわって福祉や教育、子育ての事業に影響してくる。だから市長は、もう一回長期財政計画や、市役所の中でもう雑巾を絞っても一滴も出ないくらい絞り、無駄を一切なくす努力をして皆様に、これでもだめなので助けてくださいと理解を得たいと言っている。

また、上下水道使用料の問題も出てくる。例えば今皆さんが水を1杯飲むとき、その水を作るのに200円かかっているにもかかわらず、皆さんからは100円しかいただいでいない。下水道も同じで、処理するには200円かかるが、皆さんからは100円しかいただいでいない。この差は必ず税金を投入しなくてはならないので、将来的には何とかしてかなければならない。

介護保険も当然掛金だけで本当は運営していかなければならないのだが、なかなかそれが出来ていないので、税金を投入しなければならない。そういう観点から都市計画税も将来に渡っては必要ではないかという議論はあるが、ただ今の段階で皆様に判断をいただきたいので、今日、時間があれば都市計画税について意見をいただきたい。都市計画税は、宅地と雑種地だけで農地へは掛けないが、よく「猪や鹿が出るところへも掛けるのか。」と言われる。宅地と雑種地だけなので、そこは若干違う。文化的な生活、都市機能的にすばらしい生活が営まれるための施設として計画さえすれば今後も充当することはできる内容ということを理解いただきたい。

(委員)

合併して10年が過ぎようとしている。そういうなかで例えば10年先の都市計画が

あるのかないのかっていうことを聞きたかった。

(総務部長)

現在、将来においてこれを造るという構想はない。強いて言うなら、石和の鵜飼橋のところからまっすぐ行くと丁字路となっているが、あそこから北側に道路を造る計画が、もう 50 年前に石和町時代に立てた都市計画に入っている。ただ、実際に実現できるかという、既設のビルやホテルを移転させることは非常に厳しい。都市計画というのは一回計画を立てたら、変更することになった際、簡単に消しゴムで消すことはできない、それだけ重い計画。

(委員)

重い計画ということは理解できるが、この笛吹市をどういう都市に作っていきたいかという 10 年後の笛吹市の青写真的な部分、完成予定図のような都市計画があるのか。下水道の償還をしながら将来こういうものに向かっていくという部分を我々が見通す事が出来ていれば、都市計画税は下水道のためだけに払うわけではないので、そういった議論にはならないと感じる。

(総務部長)

今、実際に使う予定としているものが下水道の償還なので、それだけが先行してしまっている。来年以降、笛吹市の都市マスタープランというものがあり、これは笛吹市全体の計画まで至らないが、この地区はどういう姿にということを見直すことになっている。そういうプランの中で、この「都市」という響きが都会のイメージではあるが、田舎の田園地帯というものをしっかり構築するための計画を立てるので、その中で、都市計画施設を必要に応じ、設けていかなければならないので、動き出していることは事実だが、それが何かと言ったらまだ明確ではない。

(委員)

下水道について、芦川では合併する前の 10 何年前、下水道を造るときに理由が、「芦川という川をもう一回昔のようにきれいにしたい。」「あそこにもう一回やまめが住める川にしたい。」というのが芦川の全村民の意思だった。それから 3 年で 100% 下水道が整備され、全戸入って 5 年で川がきれいになった。実際にやまめが多く住むようになり、やっぱり入れて良かったというのが芦川の人々の意見。下水道にした恩恵がそういうところから出てきている。しかし、自分の周りを見ても、下水道の恩恵を実際感じられない。河川がきれいになったわけではないし、何がどうなったわけではない、ただ下水道に金掛けて金を取られただけ。加入していない人には、入らない方が良いと言っているが、本当は入れと勧めたい。芦川は入らないと怒られる、何で入らないって。そのくらい感覚的な違いがある。そういったことが下水道にお金を掛けている価値観の問題だと思う。

(総務部長)

芦川は農業集落排水なので、御坂や石和の下水道とは違い、芦川地内の施設でコンパクトな下水施設となっているが、やはり施設を整備するにはある程度、加入率の促進が必要になる。今の合併浄化槽は極めて優秀になってきたので、汚い水がダイレクトに河川に流されることはなくなったが、川が綺麗になるといった、そういう目に見えたものをしっかりアピールするってことも必要だとは思う。

(委員)

笛吹市がどういう方向でまちを作っていくか、果物や桃に価値を付けるためには自然が大事で、都会の方に来てほしいという観光にも山里が必要になる。変な小都市化はいらないという意見が私たち年代の女性の中ではある。何を求めて私たちが旅をしたりするかを考えたときに、都会だったら東京に行く。都会が目的で無ければ、お金をかけて九州までお風呂に入りに行く。ということは、一番、東京や神奈川、横浜や千葉に近い温泉を持っている笛吹市に来てもらうためには、ふるさと感が出ないと、都会の方が1時間で、懐かしさや、夜は真っ暗な中で、夏だったら蛍が見れる、何もかも明るくしなくても夜は真っ暗でもいいっていうどこか観光地が前あったが、星を見てああすごい、何の音も聞こえない虫の声しか聞こえないという体験をするだけでも人が呼べる場所もあった。今、笛吹は中途半端でどちらともつかない開発をしまっている。

農道に車も走るが人も歩いて自転車の人たちも山里を見ながら走れるような整備をすることも一案。住んでいる人が学校へ行くのに安全に通れる歩道があって、車と共有するスペースがあり、笛吹市は、人が安心して住める安心がある町など、さっき市長がまちづくりの話をしたが、やはり目指す方向を決めて、こういう市を作っていきます、そのためにはこういう税金もいただくけれども、大事にそういった皆さんの町を作っていきますというものが、必要。今からはお年寄りや若い人たちに残す財産として、この笛吹市は何をみんなが大切にしていかなければいけないのか、というようなことを話すようなことが市民の間でなく、建物を建てるというと反対賛成、何かを買うっていうと反対賛成という究極なことしかない、もう少し笛吹愛というようなみんな、もう一回御坂じゃない八代じゃない石和じゃない笛吹を作っていくんだというような、そういうムードが必要と思う。

(総務部長)

山下市政では、笛吹市がひとつになってやっていくということを目指している。ここに経営政策の担当部局も来ているが、今年は、市の本当の最上位計画である総合計画を見直し、来年からスタートする。山下市政が今後ずっと発展していくようになっていくので、今が本当にターニングポイント的に皆さんの力を借りながら進めていくときだと思っている。これまでは、市長が本日のようにここに参会し、皆さんと一緒に話をし、一つ一つ意見交換をするようなことはあまり無かったのが実情。今回だけではなく、何回も何回も行なっていく。市の大きな課題を解決する時にも、以前はこういった場で、既にもうがちがちに行政で決めた素案をテーブルの上に置いて、さあどうですかという方法で議論をしてきたが、これからはがちがちの素案を作る前の基本的な考えの段階で、皆さんの色々な意見をいただき、それを持ち帰りもう一回色々なところと話をし、計画をまた戻してまたそこで議論するというような、そんなやり取りをしながら進めていく、そういうことを市民ファーストという流れとして市民の声をいただく中で行政を進めていきたいと思っているので、お願いしたい。

今日もう少し時間があつたら支所の問題や都市計画税について、皆さんの率直な意見をいただきましたが、機会を見て支所の担当部局にそういう話をいただければ、それを集約して参考にさせていただきたいと思う。

滞納の件についてだが、毎年の納税額が 81 億円ほど。昔からの累計分全部足して今年 1 年では 90%は徴収している。あとの 10%が問題。市は何も声を掛けず横を向いていると自然に 5 年の時効で税金がゼロになってしまうという認識の方がいるが、そうではない。滞納については、財産がある人は財産がある限りはしっかり差し押さる。勤めている人については、当然生活しなくてはならないので、20 万円の給料があれば 10 万円だけ生活するのに残して、あとの 10 万は差し押さえる。そういうことをしている。ただ、何故取れない人が出てくるかというと、例えば会社で A 社に 1000 万円の税金があったが、倒産してしまえばもうそこからは取れない。新しく A 社の社長が B 社を作っても A 社分は、残念ながら新しい会社に前の借金払えとは言えない。もうその会社がなくなっているのと同じなので。そういったものが積み重なって取れなくなっている。そこを市で全然何にもしないと思われがちだが、実際はそうではない。本当にもう生活保護になってしまい払うものもまったくない人については、不納欠損で落とす。そういうやり方でやっているのだから、取れるのに取らない人は殆んどいないと解釈していただいてもいい。それからホテルについては、全部差し押さえた結果、潰れてしまえば 1 円も取れない。そうなる銀行に抵当があれば市には税金が全く入らず、何の意味もなくなってしまうので、少しずつでも納付をしてもらえば、そこからまた時効が伸びるので、100 円でも 10,000 円でも今年もらえばまた 5 年延びる。来年 100 円納付されれば、またそれから 5 年延びるので、そういうやり方で繰り返しているのだから、無闇に見逃すようなことは一切していない。そこをよく分かっていたいただきたい。

(委員)

でも 6 年目はだめということ。1 年ずつ消えていって、いつも 5 年しか残っていない。

(総務部長)

それは違う。一回徴収すればその前のものと一緒に 5 年間そこから事項が始まる。だから 5 年間拒否していればゼロになるということではない。

(委員)

例えば都市計画税が導入された場合、年間、どれくらいの徴収になるのか。

(総務部長)

固定資産税の 0.2%なので、条例からすると 5 億円。

(委員)

上下水道の料金について伺いたい。

(総務部長)

上下水道の審議会があり、平成 25 年の審議会では「3 年くらいかけてゆっくりしっかり上げるべきだ。」といった答申があった。しかし、市としても色々な状況の変化があったためそのままにしていたが、今もう一度、審議会を行っており、基本的には公営企業の考え方は、独立採算制が基本だが、そのレベルに一度に上げるわけにはいかないのだから、段階的に上げるべきというような方向性が出ている。

(委員)

中央市は都市計画税取っていない。実家の母の全部を見ていて、施設に入っている

ので、全く上下水道を使っていなくても基本料金がけっこう高い。だから私が住んでいる下黒駒は下水道が無いので高くは無いが、御坂の上下水道があるところほどの程度かかっているのか知りたい。都市計画税がなくて上下水道料金をたくさん取っているのではないかと。

(総務部長)

水道料と下水道料はほかの町村から比べると笛吹市は遥かに安い。

(委員)

そうだと思う。毎月、他市の母の家の料金が私の口座から引かれており、その案内を見ると高額だった。これで都市計画税を全部に掛けるというのは、中央市からすると矛盾を感じている。ごみの焼却場は、受益者負担だからそれはそれで全員が負担しており、お金を納めるべきだと思うが、都市計画税という一括にして、受益者がなくてもそれに充てるとというのがどう考えても私は納得できない。そのへんは他所のとも比べて、使っている方に納得してもらえるように徐々に上げていくべきだと思う。

(総務部長)

料については公平な負担、使っているのだからそれについてしっかり負担することについては進めていかなければならないし、ただ、夢がある将来的な像を示しながら、これに使っていくということを明確に示すようなビジョンができれば、将来使っていくことが言えるが、正直言って今は下水道のことなので、それだけをもって絶対的に皆さんが納得するかというところは、仰るとおりだと思う。

(会長)

時間も過ぎているので、(2)その他を終了する。支所のあり方と都市計画税については、もう少し皆さんと協議していきたくないので、各団体の方から色々吸い上げていただき、次の機会に是非いろんなことを協議していきたく思っている。区長会も近々開催されるので、その席で支所のあり方及び都市計画税について協議願う。

7. その他

なし

8. 閉 会 (副会長)

今日の協議内容について、それぞれの組織へ持ち帰っていただき、意見を取りまとめて、次回は支所や都市計画税のことについて深く協議していきたく。年に何回もあるような会合ではないので、できるかぎり出席いただき、意見を市長に確実に届け笛吹市並びに御坂町がもっと盛り上がるように皆さんの力を貸していただければありがたい。今日のご苦勞様でした。

互礼を交わし終了 (午後 9 時 00 分)